

(様式2)

養豚農場と家保の新たな協力体制による生産性向上
の取組 : 飯田家保 間瀬加奈子

1 管内一養豚農場で、令和2年度から母豚の背脂肪
2 厚測定による生産性向上対策を開始。家保職員が測定
3 を実施していた従来の方法に対し、当該農場では従業
4 員が測定。農場は半年ごとに測定結果および繁殖成績
5 等を家保へ提出。家保で作成した資料をもとに、繁殖
6 ステージごとの背脂肪厚目標値を設定し、飼料給与量
7 を調整。令和3年8月、産子数と背脂肪厚のデータ
8 から、繁殖ステージごとの「削瘦」「正常」「過肥」の
9 判断基準となる背脂肪厚、飼料給与量を再検討。令和
10 4年1月、分析結果をもとに再提案。その結果、「正
11 常」背脂肪厚の母豚割合は、50%から71%に、母豚
12 1頭当たりの平均産子数は12.7頭から13.1頭に増
13 加。背脂肪厚で飼料給与量を決めたことで、繁殖成績
14 が向上。農場が測定、家保は分析・助言と分担するこ
15 とで、分業化が進展、農場の主体性は向上。作業分担
16 による双方向の情報共有で、家保と農場の新たな協力
17 体制が構築できることを示唆。